

中期編

森と光が織りなすうるおいのまち伯耆町  
家庭教育ハンドブック

～家庭で自分から学ぶ子どもを育てる～



伯耆町教育委員会

監修／鳥取大学名誉教授  
矢部 敏昭

## 監修に当たって

この度、伯耆町教育委員会により「家庭教育ハンドブック」の改訂版が刊行され、令和8年度から活用されることをうれしく思います。輝く未来を生き抜く子ども達のために作られたこのハンドブックが、伯耆町のお子様を持っているご家族の家庭教育に生かされ、伯耆町の未来を担う子ども達の健やかな成長の一助になることを心から願うものであります。

子ども達の「自立」に向けて、この時期に大切なのは家庭の中で自分の役割や自分がやらなければならないことに対して、より良く事を為す習慣を身に付けることです。それは、もし子ども達の学びに向かう力が教育によって育まれるならば、それは基本的な生活習慣を身に付けることだからです。自分のできることを少しずつ増やす過程は、自分の中に自分はやればできるという可能性を拡げ、その成長の足跡は子ども達の自信と心の強さを育むことにつながります。

より良く事を為す習慣は、子ども達自身の存在が家族や仲間のために自分を生かしていること、また自分が生かされていることに気付くと同時に、次第に自分の居場所と心の支えになっていきます。子ども達の小さな壊れやすい存在は、仲間や社会というつながりの中で支えられ、そして、一番身近な家族というつながりの中で支えられます。

「自立」へ向けた過程は、学びに向かう力（“考える知性”と“感じる知性”）という心の土壌を耕し、子ども達の将来に向けた様々な可能性の芽を育むことにつながると思われてなりません。

鳥取大学名誉教授  
矢部 敏昭

## もくじ



・ 保護者のみなさまへ .....	3
・ 家庭教育のめざすところ .....	4
・ 小学校5年生 .....	6
・ 小学校6年生 .....	8
・ 中学校1年生 .....	10
・ 伯耆町の学校教育 .....	12
・ 特 集 .....	14

## 保護者のみなさまへ

家庭は、お子様が安心して成長できる「こころやすらぐ場所」です。お子様が心を開き、安心して自分を表現できる環境を提供することは、どんな教育よりも大切な土台となります。しかし、家庭だけではなく、学校や地域といった外部のサポートも同じくらい重要です。

「学校」「地域」「家庭」がしっかりと連携し、それぞれが役割を果たすことで、お子様の成長はさらに力強く、しなやかなものとなります。この三者が「スクラムを組んで」お子様を育てていくことが、健やかな成長を支える大きな力になります。

学校では学びの基盤を作り、地域では社会性を育み、家庭では心を支えます。それぞれの場での役割が、互いに補完し合い、協力し合うことで、お子様はより多面的に成長できるのです。このスクラムを組むという考え方は、単に物理的な支援だけでなく、心の支え合いを意味しています。家庭の中での温かさ、学校での知識、地域でのつながりが一体となり、お子様の成長にとって欠かせない要素となります。

子ども達の「自立」に向けて、家庭・学校・地域社会がスクラムを組んで、それぞれの役割をはたしていく必要があります。伯耆町の子ども達を、みんなで見守り、みんなで育てていきましょう。

この『家庭教育ハンドブック【中期編】』は、小学校5年生から中学校1年生のお子様をお持ちの、保護者や家族の方を対象につくりました。今後、子ども達の成長に応じて、【後期編】（中学校2年生～中学校卒業後対象）を手にしていただきます。

教育には決して「マニュアル」はありません。みんなが手さぐりで子ども達と向き合っています。大切なのは、完璧を目指すことではなく、ひとりひとり異なる子ども達と一緒に楽しみながら共に成長していくことです。この冊子を折に触れて開いてみてください。そして保護者のみなさまのオリジナルの「家庭教育ハンドブック」をぜひ作ってみてください。この冊子が保護者のみなさまの子育ての助けになることを願っています。

### お問い合わせ先

## 伯耆町教育委員会事務局

所在地 〒689-4292  
鳥取県西伯郡伯耆町溝口647  
電話番号 0859-62-0927  
ホームページ <https://www.houki-town.jp/>



# 家庭教育のめざすところ

## 家庭で自分からすすんで学ぶ子どもを育てる

大人になるということは「自立する」ことです。それは、経済的なことだけではなく、自分で考えて行動し、自分のことに責任を持つという、心の自立も含まれます。人は、そのために学びながら成長していきます。ここで言う「学び」とは、学校の勉強だけではなく、たとえば、人と関わる中で「ありがとう」や「ごめんなさい」が言えるようになること、時間を守ること、自分の気持ちをことばで伝えることなど、日々の生活の中で身につけていく力も大切な学びです。

こうした力を育てるには、家庭での関わりがとても大きな役割を果たします。朝の「おはよう」、できた時の「よくがんばったね」、困っている時の「どうしたの?」など、大人のちょっとした声かけやまなざしが、子どもにとっては大きな安心となり、自分からやってみようとする気持ちを育ててくれます。子ども達が「自分でやってみたい」「もっと知りたい」と感じるようになること——それが、自ら学ぶ姿勢のはじまりです。家庭は、そのはじまりを支える大切な場所です。

やがて子ども達は学校教育を卒業し、社会の中で生きていくことになります。社会人になると、自分からすすんで学ぶ姿勢がますます求められます。だからこそ、大人は、子ども達が自ら学べるように育てていく必要があります。言われたことをやるだけではなく、自分で考え、選び、ときには間違えながらも前に進んでいけるように、日々の生活の中で見守り、支えていくことが大切です。子ども達がどのくらい自立に向かって育っているのかを考えるとときには、家庭での「学び」の様子をよく見てみましょう。「自分からやってみる」「考えて工夫する」「最後までやりとげる」——そんな姿が少しずつでも見えてきたら、それは自立への歩みが始まっている証です。

### 学ぶ意欲を高める

「意欲」、「やる気」、「モチベーション」、いろいろな言い方がありますが、自分からすすんで学ぶ子どもを育てるうえで、とても重要な要素です。学習意欲が高まるのは、主として次の3つのケースが考えられます



1 学ぶことで、自分が信頼する人と関わりがもてるのがうれしい。

2 学ぶことで、わかること、できるようになることが楽しい。

3 学ぶことで身についたことが、自分にとって役に立つと信じている。

この①～③の3つがからまって、学ぶ意欲が高まっているのですが、この【中期編】で特に注目していくのは、②の学ぶこと自体の楽しさです。

この時期の子ども達は、思春期の入り口にさしかかり、「自立」に向けて少しずつ自分を見つめ直し始めます。「自分ってどんな人?」「何がしたい?」といった気持ちが芽生え、興味や関心が広がっていきます。同時に、学校の勉強も変化します。たとえば、算数は数学となり、より考える力が必要な内容になります。理科や社会も、理解や考察が求められる学びに近づいていきます。このように、心の変化と学びの変化が重なるこの時期は、どちらにも気を配りながら、うまくバランスをとることが大切です。家族の見守りと声かけが、子ども達の自立への力になります。

## 特集

## 「中1ギャップ」とは？



みなさんは、「中1ギャップ」という言葉をご存知でしょうか。学校が報告する「問題行動等調査」の結果を学年別にみたときに、小6から中1で「いじめ」や「不登校」の報告件数が急増することから、この言葉が広くつかわれるようになりました。そして、急増の理由として、小学校と中学校の間に大きな「壁」や「ハードル」となることがあり、それが問題を引き起こしているのだと言われてきます。それを一言で表したのが「中1ギャップ」です。

確かに小学校と中学校の学校環境をみると、学級担任制と教科担任制、部活動の有無、また授業の形式やテストの実施、評価の方法の違いがあります。また、複数の小学校出身者が集まることで、新たな人間関係づくりが必要となる面もあります。そこに戸惑う生徒があることも事実です。

現代においては新たな課題も浮き彫りになっています。特に、オンライン学習の普及や家庭での学習環境が、学びや精神面に影響を与えていることが報告されています。例えば、いじめに関する調査では、オンラインでのいじめやSNSを通じた問題が増加している傾向にあります。また、不登校の割合も依然として高く、小学生の時期に不登校の兆候が見られる場合、中学生になってからの不登校のリスクが高まる可能性が示唆されています。

ここで、大切なことは、小学校での予兆を見取り先送りしないこと、小学校での予兆をきちんと中学校と情報共有して対応することです。そこで、小中連携・一貫教育は大きな役割を担っていると考えます。

## 鳥取大学名誉教授 矢部敏昭教授がすすめる

## — 教育スタンダード — 「学習の自立化」に向けた望ましい保護者のあり方

- ・ 授業でわからない内容やあいまいなところは、家庭で復習して理解する。
- ・ 授業のノートはていねいにとり、家庭での学習に役立てる。
- ・ いつも決まった時間に、復習や宿題をする。
- ・ 毎日、時間をつくって好きな本を読む。
- ・ 日常の出来事やニュースに関心をもち、家族や友達と話し合う。
- ・ 休みには決まって、家族や友達と関わり楽しむ。
- ・ 相手の気持ちがわかるように、いつも心がける。
- ・ いつも地域の行事に積極的に参加する。



# 小学校5年生



## 小学校5年生の時期の特徴

- ・一人前に接してもらっているか、大切にされているかなど、大人の評価が気になります。
- ・自分を客観的に見つめたり、友達と自分をくらべたりするようになります。
- ・考える力も大人並みになり、時には大人への反抗も見られます。
- ・得意な教科と苦手な教科を意識し始めます。
- ・先生や家族のアドバイスにより、学習に対する興味、関心が大きく左右されます。
- ・授業では、家庭科と英語が始まります。

## 5年生の主な学習ポイント

### 国語

- ・長い文章から、要点や筆者の考えを読み取る
- ・事例や理由を入れて意見文や感想文にまとめる
- ・他者の意見を取り入れ、自分の考えを深める

#### 家庭でできることは？

- ・絵本、新聞、チラシなどを一緒に読んだ後、「一番伝えたいことは何だろう?」と問いかける
- ・家族でテーマを決めて「どっちがいい?なぜ?」と話し合う(例:「朝ごはんはごはん派?パン派?」)
- ・ニュースを一緒に見て、それについて会話をする

### 算数

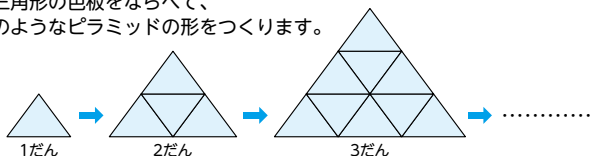
- ・異分母分数のたし算・ひき算をする
- ・数をおおよその値に丸めて(四捨五入など)、計算の答えを大まかに予測する
- ・三角形や四角形の面積を求める

#### 家庭でできることは？

- ・ピザやケーキなどを使って、「 $1/3$ と $1/4$ を合わせたらどれくらい?」と視覚的に説明させる
- ・家の中のテーブルや棚などを使って、面積を求める問題を出す。実際に長さを図って一緒に確認する

## 家族でチャレンジ!

正三角形の色板をならべて、次のようなピラミッドの形をつくります。



少ない場合から順に調べて表にかいてみよう。きまりが見つかるかな。



25まいの色板を使うと、何だんになりますか。

だんの数(だん)	1	2	3	
色紙の数(まい)				

### 家庭学習のポイント

## 学習時間のめやす70分~80分 家庭学習を始める前に



保護者  
チェック欄

①学習をする場所の整理整頓をする。

②学校からのプリント類をその日のうちに親に手渡す。

③今日の宿題と明日の授業の準備を自分で確かめる。



## 宿題と自主学習がバランスよくできる子ども

授業の内容を振り返りながら、教科書やノートを参考にして、苦手な教科にも粘り強く取り組めるようにアドバイスしましょう。また、自主学習は好きな教科、得意な教科から始め、毎日、取り組むようにさせましょう。

# 手伝いで生活を変える

## ～「やらされる」から「自分のこと」として～

「どうしたら部屋の片づけができるのでしょうか」——これは、多くの保護者が抱える共通の悩みです。見るに耐えない状態でも、親が手を出すと子どもが反発するという声も少なくありません。

こうした背景には、「自分のことは自分で」「使ったものは自分で片づける」といった基本的な生活習慣が身につけていないことがあります。子どもの自立を育てるためにも、改めて生活を見直すことが大切です。

小学校高学年になると、家庭科で家事や生活を整える学習が始まります。ちょうどこのタイミングで、家庭でも実際の家事を任せるとは、学びを深めるよい機会です。最初はうまくいかなくても、「できた！」という達成感や家族の役に立つ実感が子どもの**自信**と**責任感**を育てていきます。



## 手伝いが「役目」や「仕事」へと変わるとき

子どもにとってお手伝いは、最初は「やらされている」と感じがちです。しかし続けるうちに、「自分の役割」「家の中の大事な仕事」だと気づくことで、単なる作業から、「役目」や「仕事」へと変わっていきます。この意識の変化が、家庭で育てたい「生活力」の土台となります。

「自分には役割がある」「信頼され、必要とされている」「人の役に立つことは心地よい」——こうした気づきが、子どもの自立心を育て、将来社会で責任を果たす力へとつながっていきます。

小さな手伝いを家庭の「仕事」として任せてみましょう。子どもはそこから、自分の存在価値と力を実感できるようになります。

# 本当に必要ですか？ スマートフォン

全国的には、小学校高学年から中学校入学の時期に、子どもにせがまれて親がスマートフォンを持たせることが多いようです。持たせる理由として、「送り迎えの連絡がとりやすく便利だから」、「居所がわかるので安心だから」といった通話機能が多くあげられています。

スマートフォンに備わっている機能は通話だけでなく、インターネットに接続することもでき、LINE や Instagram といった SNS が利用できます。「ネットいじめ」、「不適切情報の発信」や「不適切な出会いによる性被害」といった子ども達のネットトラブルの主な原因は、SNS の不適切な利用です。皆さんは、多くの SNS が 13 歳未満の子どもの利用を許可していないことをご存じでしょうか？ SNS には多くのリスクが潜んでおり、リスクを避けるには SNS を正しく安全に使うための知識が不可欠ですが、子ども達にはそれらの知識が十分ではありません。そのため、スマートフォンを安易に子どもにわたすことはやめてください。また、仮にわたしたり、使用させたりする場合には、SNS の利用制限やアクセスするサイトを限定するなどのペアレンタルコントロール機能(年齢に応じた機能制限)を適切に設定してください。

町内の小中学校では、スマートフォンを学校に持ち込むことを原則として禁止しています。



伯耆町総合運動公園  
ちびっ子広場  
撮影者:石原順二

# 小学校6年生



## 小学校6年生の時期の特徴

- ・ 児童期から思春期へと移る時期です。身体的にも大きく成長するとともに、第二性徴が明らかになってきます。また、性差による体力や運動能力の違いが大きくなる時期です。
- ・ 異性としての意識が強くなります。羞恥心が出てきて、体面を気にしたり、見栄を張ったりすることが目立ちます。また、仲間内とそれ以外で違う行動をすることもあります。
- ・ 自分の心の中を見つめることが増え、抽象的な思考をするようになります。

## 6年生の主な学習ポイント

### 国語

- ・ 自分の考えをすじ道を立てて書く・話す
- ・ 文のしくみを正しく理解する
- ・ 意見を聞いて、自分の考えを広げる

#### 家庭でできることは？

- ・ 「なぜ」「どうして」を考えるチャンスをつくる
- ・ 間違えた文を直すゲームをしてみる(例：①犬をつれて歩いていた女の子が大きな声でほえた→②女の子がつれて歩いていた犬が、大きな声でほえた)
- ・ 「それもわかる。でもね…」「たしかに。じゃあ…」と返す練習をする

### 算数

- ・ (分数)÷(分数)の計算をする
- ・ 円や円弧を含む複合図形の面積を求める
- ・ 全体に対する部分の大きさを割合(%や小数)で表し、増えた量や減った量を計算する

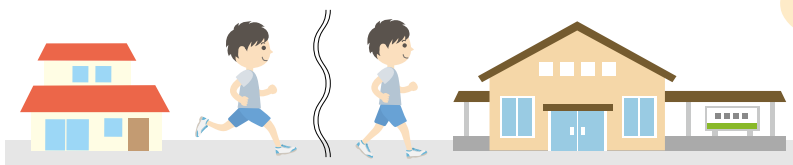
#### 家庭でできることは？

- ・ 「このジュースは3/4Lで600円、1L買うなら何円？」などと問い、分数の割り算の意味を具体物や日常生活と結びつけて体験的に理解させる
- ・ お皿やコップの底など、円形のものの直径を一緒に測って面積を求める
- ・ スーパーのチラシを見て、30%引きならいくらになるか、一緒に考える

## 家族でチャレンジ!

たろうさんは家から駅まで行くのに、歩けば20分、走れば8分かかります。たろうさんは、はじめ15分歩き、そのあと走って家から駅まで行きました。走ったのは何分ですか。

家から駅までの道のりを1として考えると、1分間に歩く道のりと走る道のりを考えてみよう。



### 家庭学習のポイント

学習時間のめやす80分～90分  
家庭学習を始める前に



保護者  
チェック欄

①学習をする場所の整理整頓をする。

②学校からのプリント類をその日のうちに親に手渡す。

③宿題を自分で確かめ、やる順番を決める。



## 宿題と自主学習がバランスよくできる子ども

学校が終わってからもやるべきことがますます多くなる時期です。1週間の予定を見ながら、見通しをもって生活するためにも予定表と計画表をつくり、家庭学習の時間を確保する習慣をつくるのが大切です。また、今一度、基本的な生活習慣のチェックを行い、よい生活リズムで生活ができるよう話し合しましょう。

## 感動する本との出会いを



読書は、脳の前頭前野を発達させる効果が認められることから、語彙力や読解力を高め、夢を持ち将来を前向きに考えることのできる子どもを育てる手助けとなります。また、本を読むことで、想像力を養い、豊かな感性や共感性、思いやりの心が育まれるともいわれています。

読書の習慣を身に付けるためにお勧めなのが、「家読(うちどく)」です。「家読」とは、絵本の読み聞かせはもちろん、読書を通じて家族のコミュニケーションを図る取り組みです。例えば、家族で図書館に行く、みんなが好きな本を読む読書タイムを設ける、家族で読んだ共通の本について感想を話し合う等の工夫が考えられます。こうした本を通じての家族と楽しい時間を共有した経験の積み重ねが、将来にわたっての読書習慣の形成に繋がります。

学校図書館、町立図書館では、職員がさまざまな工夫をこらし、子どもや町民の読書活動がすすむように取り組んでいます。さまざまな機会をとらえて、ぜひ図書館もご活用ください。

「家読のすすめ」→



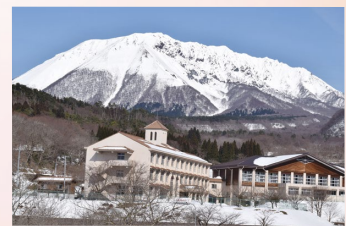
## 「いじめ」をしない子どもを育てる



いじめは、弱い立場の子どもや、安易にまわりに同調しないため「異質」とみなされた子どもなどを標的にする、人間として恥ずかしい行いです。「いじめられる側にもそれなりの理由がある」というのは、いじめを認める側の勝手な言い分にしかすぎません。

いくら軽い遊びや悪ふざけ、ジョークのつもりでも、いじめられる側の苦しみや痛みは深刻であることを想像させましょう。そして、いじめめることは、人間として決して許されないことであり、いじめをはやし立てたり、傍観したりすることも同じであるということを、家庭の中できちんと話し合しましょう。そして、自分の子どもがいじめをしているとわかったら、すぐにやめさせてください。

また、いじめている子どもが強いプレッシャーを受けている場合や、いじめられる側がいじめられる側に逆転したという場合もあり、時間が経つに従って、状況がより複雑になることがあります。そうなる前に、早期に発見して早期に対応することが何よりも大切なのです。



日光公民館と大山  
撮影者：高橋英樹

# 中学校 1 年生

## 中学校 1 年生の時期の特徴

- ・いわゆる「思春期」であり、心と体の成長がアンバランスになりがちで、不安や悩みを抱えやすくなります。
- ・家族に依存したいという気持ちと、家族から自立したいという気持ちが混在します。
- ・矛盾する大人の態度に反抗的になります。また、同年代の仲間の影響を強く受けます。
- ・他人から見た自分を意識し、他人とくらべて落ち込んだり、無理に合わせようとしたりすることがあります。
- ・小学校とはちがう新たな中学校生活が始まり、教科の内容が組み変わります。特に、生活に占める部活動の割合が大きくなります。

## 中学 1 年生の主な学習ポイント (小中一貫カリキュラムより)

### 国語

- ・「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる
- ・「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と考えとの関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握する
- ・「書くこと」において、比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使う
- ・単語の類別や文節について理解する

### 数学

- ・正負の数の四則計算をする
- ・関係を表す式を等式や不等式で表現する
- ・一次方程式の解き方を理解する
- ・平行移動・回転移動・対称移動の性質を理解する
- ・比例・反比例のグラフをかく
- ・度数分布表と平均値について理解する

### 英語

- ・「聞くこと」において、Can [can't] you ~? / What can you ~? などの意味や働きを理解する
- ・「聞くこと」において、There is [are] ~. / How ~? などの意味や働きの理解を基に、会話文の内容を読み取る
- ・「話すこと」において、be動詞 (am, are)、I'm ~. / You're ~. などの表現の特徴や決まりの理解を基に話す
- ・「書くこと」において、三人称・単数で、現在形の場合の肯定文や否定文などの表現の特徴や決まりを理解する

## 家族でチャレンジ!

### 色で見える掛け算の秘密 ～筆算の工夫～

「筆算の掛け算、繰り上がりで間違えちゃった…」

そんな経験、ありませんか?

実は、ちょっと変わったかき方をすると、計算ミスが減る方法があるんです!

では、ふつうの筆算をみていきましょう!

(1)

$$\begin{array}{r} 123 \\ \times 15 \\ \hline 615 \\ 123 \\ \hline 1845 \end{array}$$

(2)

$$\begin{array}{r} 123 \\ \times 351 \\ \hline 123 \\ 615 \\ 369 \\ \hline 43173 \end{array}$$

これを次のようにかくこともできます。

(1)

$$\begin{array}{r} 123 \\ \times 15 \\ \hline 03 \\ 0215 \\ 0110 \\ 05 \\ \hline 1845 \end{array}$$

(2)

$$\begin{array}{r} 123 \\ \times 351 \\ \hline 09 \\ 0615 \\ 031003 \\ 0502 \\ 01 \\ \hline 43173 \end{array}$$

この筆算、どんな仕組みになっていると思いますか?

実は、からくりはこうです!

この方法では、すべての桁同士の掛け算を別々に計算して書き出しています。(数の色を手がかりに確かめてみてください。)

それぞれの計算が独立しているので、「あれ? さっきの繰り上がりいくつだっけ?」と混乱することがありません。

最後に全部を足し合わせれば、答えが出ます! 計算の「仕組み」が少し深く見えてきませんか?



家庭学習の  
ポイント

学習時間のめやす100分～110分  
家庭学習を始める前に



保護者  
チェック欄

宿題と自主学習がバランスよくできる子ども

中学校生活が始まってしばらくは、宿題をこなすだけで精一杯という状態が多いと思います。小学校高学年で自主学習にも取り組み、ある程度の時間の家庭学習ができていることが生きてきます。宿題だけの家庭学習から、徐々に自分で工夫して自分なりの家庭学習にしていく必要があります。家庭での勉強の仕方について、経験をもとにアドバイスをしていきましょう。



自分で考え自分で行動できる人に  
育ててほしいなら

子どもの進む先の障害物を先回りしてどけたり（過保護）、あれこれ指示をしたり（過干渉）するのではなく、子どもが好きなものを見つけるまで待ち、できるだけ子どもの力を信頼し、それを見守り、力づけるようにしましょう。あれこれしないで見守ることは、モノを買いあたえたり、何かをしてやったりするよりも、ずっと難しく愛情がいることです。

また、親は自分が子どものために考えたことは正しいと思いがちですが、必ずしもそうとは限りません。自分の思いや考えを押しつけるのではなく、「あなたはどう思う」と、まず子どもの言い分をじっくり聞き、気持ちをしっかりと受けとめてから、「自分はこう思うんだが」と、いっしょに考え、いっしょに学んでいく姿勢が大切です。

子どもが自分で考え、勇気をもって行動し、達成感を味わう、または、失敗から学び強くなるチャンスを、子どもから奪わないようにしましょう。

子どもの考えを  
尊重し、  
子どもの意見を  
しっかり  
聞きましょう。



大山(金屋谷)  
撮影者:高橋英樹

寝

る

子

は

育

つ

十分な睡眠は、成長ホルモンの分泌をうながし、骨と筋肉の成長を促進します。また、脳内では睡眠中に記憶の整理と定着がなされ、学習にもよい影響を与えます。感情をコントロールする力も十分な睡眠によってもたらされ、思春期の情緒の安定につながります。心と体の成長や充実した生活のためにも、睡眠の値打ちについて考えてみてはいかがでしょうか。



# 伯耆町の学校教育

## 「まちぐるみで取り組む教育の推進

～地域とともにある学校づくりを基盤とした保小中一貫教育の推進～

本町の小中学校の教育のキーワードは、「保小中一貫教育」と「コミュニティ・スクール」です。この2つについて保護者のみなさまにもご理解をいただきたいと思います。

### 伯耆町 地域学校協働本部「ほうきてごネット・ゆめネット」

伯耆町教育ネットワーク会議

伯耆町教育委員会事務局・ほうきてごネット代表・各CS代表・各保育所代表・CSディレクター

岸本中学校区  
ネットワーク会議



地域学校協働本部  
地域コーディネーター  
ボランティア

溝口中学校区  
ネットワーク会議



伯耆町型保小中一貫教育

- ①小中一貫教育カリキュラム
- ②スタートカリキュラム
- ③アプローチカリキュラム

岸本中学校  
岸本小学校  
八郷小学校  
こしき保育所  
ふたば保育所  
あさひ保育所



目標共有・連携

家庭教育支援チーム  
教育支援センター  
子育て支援センター

公民館  
図書館  
文化センター  
写真美術館  
総合スポーツ公園  
給食センター

目標共有・連携

伯耆町型保小中一貫教育

- ①小中一貫教育カリキュラム
- ②スタートカリキュラム
- ③アプローチカリキュラム

溝口中学校  
二部小学校  
溝口小学校  
溝口保育所



岸本中学校区保小中一貫教育部会

関係各部会

溝口中学校区保小中一貫教育部会

伯耆町教育振興会

伯耆町教育委員会事務局・全学校教職員・(福祉課)・全保育所職員

## 「保小中一貫教育」

本町の2つの中学校区（岸本中学校区・溝口中学校区）では、保育所、小学校、中学校の保育士・教職員が話し合いをもち、義務教育修了までにどのような子どもを育てるのか（これを「目指す人間像」と呼びます）を共有して、日々の保育・教育に取り組もうとしています。特に、小学校と中学校では、どの時期に、どのような内容を、どのような方法で教えるのか（これを「一貫カリキュラム」と呼びます）について、お互いに理解しあった上で、学力がより確実に定着するための工夫をして授業を行っています。また、総合的な学習の時間をつかって、地域のことについて学ぶ「地域学習」と自分の生き方について学ぶ「生き方学習」（これらをあわせて「伯耆I（アイ）学習」と呼びます）を、地域の特色を生かしながらどの学校も共通して実施しています。広い意味での学力である人間力を育てようとするねらいがあります。このように、保育所から義務教育9年間を通して、一貫性をもった教育を行うことから、保小中一貫教育といわれています。

## 「コミュニティ・スクール（CS）」

平成30年度から、本町のすべての小中学校がコミュニティ・スクールに指定されました。これにより、校長と共に保護者や地域の方々、専門的知識をもつ方々の視点を取り入れ、地域全体で子ども達を育てる環境を整備し、家庭・学校・地域が連携して教育に取り組むことができます。コミュニティ・スクールでは、複数のメンバーで構成される学校運営協議会が設置され、校長の運営方針について協議し、承認を行います。また、教職員人事について意見を述べることもできるしくみになっています。本町では、学校が抱える課題について話し合ったり、学校に対して地域や保護者の方々がどのように協力できるのかなどを話し合ったりすることが行われています。コミュニティ・スクールは「地域とともにある学校づくり」の中心となる取組です。

他にも、本町には次のような組織があります。

## 「伯耆町教育ネットワーク会議」

各コミュニティ・スクール（CS）の間の横のつながりを形づくるために、中学校区ごとに3校ずつで、中学校区CSネットワーク会議を開いています。各学校の学校運営協議会の代表者3名ずつが集まり、中学校区の「目指す人間像」を共有し、その実現に向けて話し合いを行います。さらには、2つの中学校区を超えて取組について情報交換を行い、伯耆町全体としての「目指す人間像」を共有していくために、各中学校区のネットワーク会議のメンバーで、伯耆町CSネットワーク会議を組織しています。コミュニティ・スクールの取組の中に、保小中一貫教育の視点を取り入れて、町ぐるみで子ども達の育ちを支えていくことをねらっています。

## 「地域学校協働本部」

地域住民、学生、保護者、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支え、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校がパートナーとして連携・協働して様々な活動を行う組織を地域学校協働本部とよんでいます。本町では、毎年述べ1000名以上の方がそれぞれの得意分野でボランティアとして授業で子ども達に関わったり、登下校で安全見守りをしてくださったりしています。このような活動を「てごネット」と呼んでいます。また、中学生が週末に公民館や、地域の行事等の運営補助のボランティアとして参加する活動を「ゆめネット」と呼び、地域学校協働本部の両輪として「人づくり、町づくり、未来づくり」を進めています。現在、教育委員会事務局に統括コーディネーターを1名、各学校にも1名の地域コーディネーターを配置し、学校と地域の間をとりもって調整をする役割を担っています。

## 「家庭教育支援チーム」

保育所から中学校までの幅広い保護者のみなさまに、家庭教育の役割について再確認していただき、子ども達の育ちに積極的にかかわっていただくために、家庭教育支援チームが組織されています。子どもに関わる部局と教育委員会事務局が連携しながら、家庭における子育てについてさまざまな視点からアドバイスを行うこととしています。構成メンバーも、家庭教育推進員、保健師、子育て支援センター・教育支援センター職員、スクール・ソーシャル・ワーカー、スクール・カウンセラーと専門的な職能をもっています。



鬼住山と溝口の町並み  
撮影者：高橋英樹



春の藍野公園の桜と大山  
撮影者：石原順二

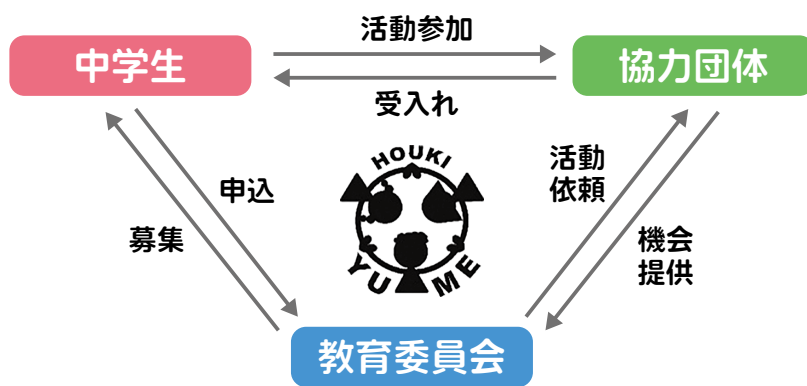
# 「子ども」「保育所・学校」「家庭」「地域」が一体となって取り組む ほうき『ひと・まち・未来づくり』アクションプラン

めざす 児童生徒像	子どもの取組	保育所・ 学校での取組	家庭での取組	地域での取組
夢をもち、すすんで学ぶ人	1 話をよく聞き、自分の考えを説明する	1 主体的・協働的な学びの充実、共に伸びる授業の実践	1 学校の学習内容に関心をもつ	1 学習に関わる素材や人材の発掘に協力する
	2 宿題を忘れず行い、予習に取り組む	2 授業と家庭学習の関連性を重視した指導を行う	2 家庭学習に集中できる環境をつくる	2 公民館、放課後子供教室等で多様な学習機会を提供する
	3 読書の習慣を身につける	3 授業内容に関連した本を紹介し、読書への興味につなげる	3 本に親しむ習慣をつける	3 町立、保育所、学校図書館が連携し、読書の充実を支援す
	4 自主学習や自由研究に取り組む	4 自己を見つめ、課題を設定し取組を振り返る習慣をつける	4 新聞等の内容に関心をもち、親子で会話する機会をもつ	4 学校支援ボランティアの充実を図る
	5 生活や遊びの中で、いろいろなことに取り組む	5 子どもの思いに寄り添い、思いを聞く場を設定する	5 体験活動、人との交流の機会を充実させる	
たくましく、心豊かな人	1 友達の良いところを認め、思いやりのある声かけをする	1 お互いを認め合える学級経営に努める	1 体験や食事を共にし、子どもの思いを聞き、認め、話し合う。	1 子どもの体験活動、世代間交流を深める行事等を提供する
	2 学校であったことなどを家庭で話す	2 異年齢交流を取り入れ、自他を理解し協力できるようにする	2 家庭で大人が率先して、子どもに感謝の気持ちを伝える	2 良いことやがんばりを誉め、良くないことは明確に伝える
	3 自分から進んで、あいさつ、ありがとうを言う	3 あいさつ、返事、履物揃え等、人を大切にすることを育む	3 早寝早起き朝ごはんを励行し基本的生活習慣の定着を図る	3 大人があいさつの手本を示し、あいさつ運動を推進する
	4 目標をもって運動に取り組む。食べ物の好き嫌いをなくす。	4 運動しやすい環境を作り、体力向上に努める	4 家庭で体を動かす機会をつくる	4 子どもの体力づくりを推進する活動を行う
	5 ゲームやスマホ等の利用方法やルールを決める	5 PCやSNSなどの適切な利用方法やルールを指導する	5 ゲームやスマホ等の利用方法やルールを決め確認する	
ふるさとを愛し、 社会に貢献する人	1 身近な課題について自分ができることを考え行動する	1 学びを社会に開き、多様な人と共に学ぶ機会を充実させる	1 地域行事やPTA行事に参加し、共に働く親の姿を見せる	1 公民館や地域行事等に子どもの出番、企画の場を提供する
	2 地域の行事、ボランティア活動に進んで参加する	2 学びの成果を地域に還元するカリキュラムを開発する	2 親子で夢を語り合い、子どもの夢を認め励ます	2 地域のよさ、伝統・文化を伝え、担い手を育成する
	3 自分の役割を責任をもって果たす	3 委員会や係活動で自分の役割をもって行動できるようにする	3 家庭の中に、毎日できる子どもの役割を作り継続させる	3 地域貢献活動の充実を支援する
		4 ふるさとキャリア教育を推進する		

※令和5年度「伯耆町教育ネットワーク会議」にて作成

# 地域に夢と未来を拓く『ゆめネット』 (中学生の地域貢献活動)

伯耆町教育委員会では、中学生が地域に貢献する活動を「ゆめネット」と呼んで、希望する中学生が、週末や長期休業中などに、公民館や事業所などでの活動に、ボランティアとして参加することを推奨しています。町内の諸団体から、「地域でイベントをする時に、中学生の力やアイデアを借りたい」など、活動を通して中学生が地域社会とのつながりについて考える機会を提供していただき、毎年、延べ200名を超える中学生が「ゆめネット」の活動に参加し地域で活躍しています。



赤色のゆめネットジャンパーを着て、今年もたくさんの中学生が活動に参加しています。

## 「地域とともにある学校づくり」から 「学校を核とした地域づくり」へ

伯耆町内の小中学校では、学校内外での学習支援や学校環境の整備、児童生徒の地域貢献活動、中学生の伯耆未来塾など、様々な地域学校協働活動が保護者や地域の支援や協力のもとに行われています。

地域学校協働活動は、子ども達に多様な体験や学習機会を提供したり、子ども達が地域の様々な行事や活動に参加したりすることによって、子ども達と地域の未来を創る取組となっています。学校と地域、相互の連携・協働のもとに、「地域とともにある学校づくり」を進めながら子ども達の成長を支え見守っていくことが、「学校を核とした地域づくり」へとつながっていきます。



感謝の花の贈呈



フェスティバル・ディア・マスミズ  
「出店ブースの補助」



年末のおせち配布



幸せ呼ぶフラワーパーク



**発行** 令和8年1月

**編集・企画** 伯耆町教育委員会

所在地：鳥取県西伯郡伯耆町溝口647番地  
TEL 0859-62-0927

**参考** 平成22年版

『家庭教育手帳 小学生（低学年～中学年）編』

発行者：文部科学省生涯学習政策局

男女共同参画学習課家庭教育支援室

令和6年版

『家族で応援！小学生スタートブック

子どもの自立スイッチ，ON！』

発行者：鳥取県教育委員会

**印刷・製本** 有限会社 米子プリント社